『願い』一歩前へ

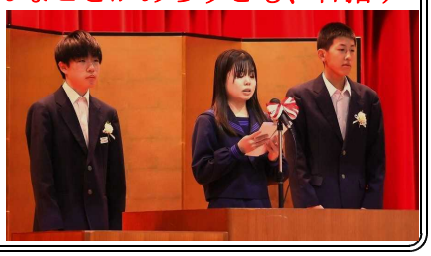
長浜市立西中学校　学校だより　第１５号
令和６年３月２２日　発行文責；小川淳三
生活スローガン「あすこそは」
あいさつ・スマイル・こしぼね・そうじ・はきもの

３月１２日（火）、１５３名の３年生が「母校」となる西中学校を巣立っていきました。第７７回卒業証書授与式は、厳粛（げんしゅく）な中での感動的な式となりました。吹奏楽部の演奏に乗せて、全員で歌った校歌は、間奏のリズムも心地よく、気持ちが高揚（こうよう）しエネルギーが湧き出てくるようでした。式にご協力いただいた全ての皆さんに感謝します。ありがとうございました。

卒業証書を渡す時、「ありがとう」の言葉を添えました。最後に手渡した吉本さんの証書番号は１９６７０号で、ここに在校生３２７名を加えると１９９９７名となります。そこに、旧・現教職員を加えると２万人を優に超えます。西中に関わるそれだけの人が歌い継いできました。今後も校歌に込められた願いを胸に、しっかり生きていきたいと思います。

感動の歌声だけでなく、あたたかい心と言葉が体育館にこだましました。

「飛翔 ～笑顔でつなげ将来へのバトン～ 」の言葉のように、私達はそれぞれの力を信じ、努力を積み重ね、ここまで進んでくることができました。皆さんに支えられながら、ヒナから美しい鳥へと成長し、ついに今日、一斉に羽ばたきます。私達の成長を見守ってくださった皆さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これから先どんなことがあろうとも、目指す高みに向かいここで学んだことと自分の可能性を信じて進んでいきます。どうか見ていてください。



私達の西中学校。本当に、本当にありがとう。さようなら。

最後になりましたが、私達の心からの感謝を申し上げるとともに、今後の西中学校の更なる発展を心よりお祈りし、答辞といたします。　　卒業生代表　川口総司　脇坂奏太　大橋怜奈

忘れがたい美しい思い出の数々が、次々と思い出され、感謝の気持ちが湧いてくるとともに、寂しさも込み上げてきます。特にこの一年は、充実した、とても濃い一年だったのではないかと思います。様々なことを経験し、たくさんのことを乗り越えてきた皆さんなら、これから先、どんな困難が待ち受けていようとも、自分たちの力で乗り越えていけると思います。これからも自分たちの力や可能性を信じて、自分たちの信じた道を歩んでいってください。

四月からは、私たちが最高学年となります。西中学校の良き伝統を受け継ぎ、新たなことにもチャレンジし、より良い西中学校にしていきます。期待していてください。

在校生代表　坂 仁一朗

「式辞」からも一部を掲載します。

本校は昭和２２年（１９４７年）４月２８日に創立され、当時の面影を残している建物は現存しませんが、開校以来、校歌はずっと歌い継がれてきました。ここ数年は声を上げて歌うことは叶いませんでしたが、「わが望みやどす伊吹」に届けとばかり、胸を張って全校で歌うことができました。今年度で約２万人が歌い継いでいます。校歌に込められた「願い」を胸に一歩前へ……心は高く、心は清く、心は広く、西中プライドを持って人生を歩んでいきましょう。

今一度この３年間の学校生活を振り返ってください。３年生の中で何か続けられてきたことが浮かんできたでしょうか。それは……「花瓶の花」です。一週間の始まりに、皆さんの登校を美しい花が、学年廊下で３年間迎えてくれました。弊社の日名子先生は、学級担任をしていた頃からずっと花を生けてこられました。本当に有り難いことです。ありがとうございました。

「心は誰にも見えないけれど、心づかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える」という宮澤章二さんの「行為の意味」。先生方や友だち、保護者の心、思いをその行為から感じることができるまでに成長した皆さんに、「自分の一歩」という宮澤さんの詩を贈ります。

いま　わたしの踏みしめる一歩は　だれか他の人の一歩ではない
わたしの足が地上に刻む一歩は　いつでも　わたし自身の一歩なのだ
他の人より一歩先を歩くからといって　他の人より優れているとは限らない
他の人より一歩後を歩くからといって　他の人より劣っているとは限らない
自分の目標を定めて歩きだしたのだから　自分の一歩をしっかりと信じて進もう
出発点には＜人生＞など　まだない　到達点にこそ　わが＜人生＞はあるのだ
歩きつづけ生きぬいた尊い証明として　（中略）

卒業生の皆さんには、あたたかい春の心が似合います。中学を卒業する節目の今日こそ、ありがとうの気持ちを、家族、友だち、先生方に伝えてください。

皆さんの前途が健康で幸多きことを心から祈念し、式辞といたします。

卒業式は、３年生にとって「最後の授業」とも言われます。また、卒業式とは「過去の提示」の場であり、「未来の覚悟」を表明する場です。在校生代表の「送辞」、卒業生代表の「答辞」の一部を読み返しても、過去への感謝や未来への決意が読み取れます。それは歌声にも表れていました。式歌「春風の中に」では、まさに「ありがとう」という感謝の心を伝えていました。その気持ちに応えるように、３年生の巣立ち・旅立ちを、みんなの歌で祝福することができました。

卒業式前日に披露されたモザイクアートにも、その気持ちが表れていました。「ありがとう。」

春風（はるかぜ）や闘志抱（いだ）きて丘に立つ

長浜市教育委員会「告示」では、織田教育長がその最後で、高浜虚子（たかはまきょし）の俳句を卒業生に贈ってくださいました。ここでも「春風」が、式歌とこだましたように思いました。

春風とは、これから立ち向かう困難・逆境を表していると読み取れます。それに立ち向かおうとする覚悟と言ってもいい強い思いが「闘志抱きて」という言葉に表れています。新年度の新たなスタートに臨み、「これからやってやるぞ」という気持ちを持って、それぞれが新しい世界に進んでいきたいと思います。

わが行く道に茨（いばら）多し　されど生命（いのち）の道は一つ　外（ほか）に道なし　この道を行く　武者小路実篤（むしゃのこうじさねあつ）

校歌に込められた「願い」を胸に、一歩前へ進んでいきましょう。心は高く、心は清く、心は広く、西中プライドを持って人生を歩んでいきましょう。　卒業・進級おめでとうございます。

保護者・地域の皆様へ

この１年間、本校教育の推進にご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後とも引き続き、ご支援の程よろしくお願いいたします。なお、今年度も離任式は行いません。異動については２９日１３時、保護者宛にメール配信します。

※４月８日（月）に始業式・入学式を実施する予定です。変更があればメール等でお知らせします。